

令和元年度決算に係る

定期監査資料

令和2年7月

地域づくり推進部 県民参画協働課

目 次

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1 頁
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
	(3) 決算審査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1 頁
3	職員の定員、現員調べ	1 頁
4	役付職員の調べ	1 頁
5	主な事業に関する調べ	2 頁
6	決算資料（総括表）	17 頁
7	事業別実施状況調べ	18 頁
8	予備費の充用調べ	19 頁
9	繰越関係調べ	19 頁
	(1) 継続費通次繰越調べ	
	(2) 繰越明許費調べ	
	(3) 事故繰越調べ	
10	収入証紙取扱額調べ	19 頁
11	現金の取扱状況	19 頁
12	財産に関する調べ	20 頁
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の保有状況	
	(3) 基金	
	(4) 債権	
13	財産の貸付及び使用許可調べ	20 頁
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品（1品の取得価格が100万円以上のもの及び寄附受納時の評価額が100万円以上のもの）	
14	借受不動産明細調べ	20 頁
15	職員駐車場の管理状況調べ	20 頁
	(1) 管理状況	
	(2) 減免の考え方	
	(3) 使用料の見直し	
16	寄附物件の受納状況調べ	20 頁
17	備品の処分状況調べ	21 頁
18	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	21 頁
	(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	
	(2) 物品の照合	
19	貸付金等状況調べ	21 頁
	(1) 総括表	
	(2) 償還状況	
○	意見、要望等	21 頁

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1) 指摘事項

該当なし

(2) 監査意見

該当なし

(3) 決算審査意見

該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項（口頭指摘を含む。）に対する処理状況

該当なし

3 職員の定員、現員調べ

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		合計		備考
	2.4.1 現在	31.4.1 現在	2.4.1 現在	31.4.1 現在	2.4.1 現在	31.4.1 現在	2.4.1 現在	31.4.1 現在	
定員	18	18					18	18	
現員	(4) 19	(4) 19	()	()	()	()	(4) 19	(4) 19	H31:派遣職員 3 (派遣元:ナレッジサポート) R2:育休過員 1
過不足(△)	1	1					1	1	R2:育休過員 1
臨時職員	0	0					0	0	
非常勤職員	2	2					2	2	一般事務1人 事務補助1人

4 役付職員の調べ

(令和2年 7月 1日現在)

職名	氏名	在職期間	備考
課長	西尾 麻都子	年 月 1	参画協働課から引続き 1年3月
室長	澤米 涉	1	とっとり元気戦略課から引続き 2年3月
課長補佐	藤島 聖三	1	
課長補佐	中島 始子	1	参画協働課から引続き 2年3月
課長補佐	伊井野 美雪	1	参画協働課から引続き 2年3月
課長補佐	岩田 朗	1	とっとり元気戦略課から引続き 4年3月
課長補佐	懸樋 順一		3
課長補佐	林 智広		3

5 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
県民参画協働課管理運営費 (日本財団との共同プロジェクト)	3,646	0	0	3,646
鳥取元気プロジェクト	—			
元気づくり総合戦略	—			

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

平成27年11月18日に締結した「鳥取県×日本財団共同プロジェクト協定」に基づき、「暮らし日本一の鳥取県」の実現を目指す「地方創生のモデル」づくりを推進する。

(イ) 事業の実施状況

日本財団鳥取事務所(平成28年4月開設)と連携し、県、各市町村、関係機関、民間活動団体、地域住民等と協力して、これまで4年間で約21億円規模(日本財団負担額)の事業を実施した。(この内、令和元年度の実施分は約1.7億円)

[これまでの取組項目]

○みんなが支え合う社会づくり

- ・中山間地域の生活支援 ～住み慣れた地域での生活を守る～
- ・住民参加型の健康づくり ～健康寿命日本一～
- ・難病の子どもと家族の地域生活支援 ～福祉、医療、教育の連携～

○みんなが活躍できる社会づくり

- ・競技場のバリアフリー化 ～障がい者スポーツの拠点になる～
- ・タクシーのユニバーサルデザイン化 ～地域交通のモデルをつくる～
- ・働く障がい者を増やす ～工賃3倍から産業の担い手づくり～

○プロジェクトの推進

- ・鳥取人材育成プログラム ～将来の担い手・リーダーを育てる～
- ・鳥取助成プログラム ～優れた活動の次のステージを応援～
- ・情報発信 ～県の魅力の再発見・価値の創造～

[令和元年度の実施状況]

- ・共助交通を通じた地域人材育成事業(全県/モデル地区(米子市永江、大山町逢坂、大山町大山))
- ・空き家を活用した地域交流・滞在拠点の整備(鳥取市鹿野)
- ・難病児と家族の地域生活支援事業の東部拠点の開設(鳥取市)
- ・日野郡3町が連携し、高校生を対象とした公設塾の開設 等

イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

これまでの共同プロジェクト事業では、高齢者が集まる拠点づくりを中心として進めてきたが、実際に中山間地域での最大の課題となっている買い物や通院など高齢者の移動問題に注目し、高齢者の移動問題解決への住民主体の取組を契機とし、地域づくりに関わる人材の育成と確保に繋がるよう取り組んだ。

ウ 成果及び効果

・共同プロジェクトの取組の持続性確保を案件形成の重要な視点としつつ、地域のために実際に行動をおこすことができる仕組みづくりや、人材の育成・確保につなげることができる複数の地区を創出した。

・特に、多くの地域住民が課題と感じている移動問題に住民主体で取り組む事を通じて、移動だけでなく、住民の横のつながりが深まり、地域のコミュニティが活性化していく地区の創出につながった。

〔主な成果〕

- ・ 住み慣れた地域に住み続けられるための最大の課題となっていた移動問題について、多様な選択肢の中で住民主体で問題解決していく取組を伴走支援したことで、コミュニティカーシェアリング(※)など新たな移動確保の取組がスタートした。
- ※「コミュニティカーシェアリング」とは、活動の趣旨に賛同する地域住民で立ち上げたコミュニティの会員で車両を共同利用し、乗り合いの買い物やお出かけ、通院送迎や個人利用など柔軟に活用し、地域の移動課題に対応するもの。車の維持費等の必要経費に充当するための積立金を利用状況に応じて平等に会員で分担し、定期的に精算する仕組み。
- ・ 鹿野町で空き家2か所を有効活用し、地域住民との交流と長期宿泊可能な滞在拠点として整備した。
- ・ 日野郡の高校生及び日野高校生を対象とした学習支援と地域課題解決型学習で、地域に愛着を持ち、Uターンする担い手を増やす、ふるさと教育モデル構築の取組を支援した。

エ 課題

タクシーのUD化、障がい者スポーツ拠点、難病児の地域生活支援、障がい者の工賃向上など、各分野の取組が進んでいる。このような各種の取組が地方創生のモデルとして全国から評価を受けられるよう、その社会的意義や効果についてとりまとめ、モデル的な取組として県内や他地域への情報発信を行ったり県内外での横展開につながることを日本財団から期待されている。

このため、当面は共同プロジェクトの成果のとりまとめと効果的な情報発信を進める必要がある。

また、このような取組が実現に至るまでの議論や工夫などの経験を蓄積し、地域をコーディネートしていくことができる人材、まちづくりなど地域に関わる人材、地域の取組を支える人材を住民が身近に感じられる場所を増やしていくことが必要である。

(単位：千円)

事業名	決算額	財 源 内 訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
パートナー県政推進事業	16,513	1,136	184	15,193
鳥取元気プロジェクト	—			
元気づくり総合戦略	—			

(概要)

1 県民の声推進費**ア 目的及び事業の実施状況****(ア) 目的**

県政に対する提言、要望、苦情等を広く県民から募集し、行政への県民参画を推進するとともに、県民からの提案、意見を積極的に施策に反映する。

(イ) 事業の実施状況**【令和元年度の受付件数】**

受付件数	意見数
1,590 件	3,496 件
(前年度 1,672 件)	(前年度 3,695 件)

※受付件数：電話、電子メール、郵便等で意見、提言等を受け付けた件数。

※意見数：受け付けた意見、提言等の数。1件の受付で、複数の意見、提言等が寄せられる場合があるため、受付件数とは一致しない。

【県民の声の受付状況】

電 話	電子メール	専用HP	郵 便	来庁等	ファミリー	合 計
455 件	349 件	467 件	250 件	47 件	22 件	1,590 件

- ・受け付けた1,590件のうち意見者に回答した件数：636件
- ・ホームページに掲載した件数：346件

【主な分野別意見件数】

①広報・広聴	②健康対策	③学校教育	④行財政	⑤道路整備
570 件	335 件	240 件	228 件	174 件

イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

受け付けた提言、意見を共有するに当たって必要な情報整理において、手作業で行っていた処理を電子化へ移行するなど、事務処理の効率化に着手した。

ウ 成果及び効果

令和元年度に寄せられた意見、提言等は令和2年度当初予算及び令和元年度補正予算で74事業に反映した。また、予算以外に91件の施策が改善された。

○予算への反映(例)

- ・令和新時代創造県民運動推進事業（地域づくりを志す若者が意欲を失わないような施策や予算拡充を求める意見を受け、「令和新時代創造県民運動補助金」の若者を対象とした補助金の枠（交付予定件数）を拡大した。）
- ・競技力向上対策事業（地域づくりを志す若者が意欲を失わないような施策や予算拡充を求める意見を受け、ジュニア期の競技力向上対策として総合型地域スポーツクラブの育成や活動の充実を図った。（指導者の育成、優秀な指導者の確保））

○施策への反映（例）

- ・当日どんなイベントをしているのか通行人が見て分かるような表示がほしいという意見を受け、とりぎん文化会館梨花ホールのイベント案内について、会館の出入口付近にポスター看板により表示することとした。あわせて、開催日に空席があれば「当日券あり」と表示し、県民の文化芸術の鑑賞機会を改善した。

エ 課 題

県政への提案等のほかに、県政に関係のない意見等も多数寄せられており、限られた職員で適切に対応していくために対応方法の見直しや改善策の検討を行う必要がある。

2 広聴実施事業

【パブリックコメント・県参画電子アンケート等】

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

県の主要施策や重要な条例等の立案にあたり、趣旨や内容を広く県民に公表して意見を求めるほか、登録会員に対してインターネットを利用したアンケート調査等を実施して意見を求め、迅速に集計することで県民の意向を速やかに把握するとともに、県民の県政参画へ促進を図る。

(イ) 事業の実施状況

項 目	パブリックコメント	電子アンケート	無作為抽出アンケート
実施件数	30件（前年度16件）	17件（前年度13件）	1件（前年度1件）
意見等状況	意見件数 1,539件 （前年度 462件）	平均回答率73.7% （前年度78.1%）	回収率 50.0% （1,500／3,000）
主な実施 テーマ	・鳥取港長期構想 ・鳥取県令和新時代創生戦略 ・鳥取県主要農産物種子条例	・鳥取県民の日 ・鳥取県有和牛種雄牛精液等の適正流通確保 ・効果的な選挙啓発活動検討に向けた県民意識	県民意識調査の実施（鳥取県の政策に関する県民意識調査）

イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・県政参画電子アンケート：多様な方法による広聴の実施観点から、パブリックコメントのテーマについてはなるべく電子アンケートについても実施するよう努めた。

<電子アンケート実施件数の推移>

H29	H30	R1
13件	13件	17件

- ・無作為抽出アンケート：回収率の向上を図るため、調査票のレイアウトを見直したほか、調査票送付時の封筒の色を目に留まりやすいものへ変更したり、督促状を2回発出するなどして、これまでで最も高い回収率（50%）を達成した。

ウ 成果及び効果

- ・パブリックコメントでいただいた意見のうち、166件を政策等に反映した。
（内訳：反映した＝166、既に盛り込み済＝244、今後の課題＝687、対応できない＝31、その他＝329）
- ・県政参画電子アンケートの積極的な活用により、タイミングを逃さず、広く多様な意見を徴収することができた。
- ・無作為抽出アンケート結果を基に、県民がとっとり暮らしの豊かさを実感し、社会全体で若者定着やUターン促進に取り組む機運を盛り上げていくよう、「STOP若者流出！プロジェクト」事業が新規事業として予算措置されたほか、企業トップをはじめ同僚ら働く場の理解を深めるため情報発信・普及啓発を新たに行う「活躍の場をひろげるワーク・ライフ・バランス推進事業」の拡充がされるなど、県民の意見を県政につなぐことができた。

エ 課題

電子アンケート会員の確保（統計的な信頼度を維持するために必要な標本数の確保）や県民意識調査の回収率の向上に引き続き取り組み、より多くの県政参画を図る必要がある。

【出前説明会】

ア 目的及び事業の実施状況

（ア）目的

県が重点的に取り組んでいる事業や県民の関心が高い課題などについて、県職員が県民の集会等に出向いて説明し、県民の県政に対する理解の促進を図るとともに、県民の生の声を聴いて施策に反映させる。

（イ）事業の実施状況

- ・実施テーマ数 268（H30：269）
- ・開催回数 165回（H30：176回）
- ・主な実施テーマ 再生可能エネルギー、ユニバーサルデザイン、職場のハラスメント防止等

イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・県民がテーマを選びやすくするため、引き続き、各課においてテーマを幅広く設定した。
- ・よりの確・適正な実施に向けて実施要領の改正を行った（対象外の集会の明確化、申込から受付、実績報告までの手続きの明確化）
- ・正確な開催実績の把握や若年層の制度利用促進を図るため、出前説明会DB入力の簡素化及び参加者年齢層の把握機能を追加した。

ウ 成果及び効果

重点事業や県民の関心が高い課題について直接説明するとともに、参加者と意見を交換し、県民の県政参画を推進することができた。

エ 課題

県施策を直接説明して当該施策への理解を深めていただくとともに、建設的な意見交換を行う中で、新たな施策の展開を図れる事業にしていく必要がある。

3 県政モニタリング事業

ア 目的及び事業の実施状況

（ア）目的

特定の県政テーマ・取組について県政モニターからの「県民目線・県民感覚」による意見・提案等をいただき、担当所属において次年度の予算要求や事業実施に反映させる。

（イ）事業の実施状況

- ・実施体制 県政モニター（公募）12名、コーディネーター2名
- ・対象テーマ ①地域防災力の向上（支え愛マップの普及など地域防災力の向上）
②健康づくり（健康マイレージ事業の普及など健康づくりの推進）
- ・実施状況 モニター会議（全体1回開催、テーマ別各3回開催）
レポート提出（①は2回、②は1回）、報告会開催（10/28）

イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

予めテーマを提示してモニターを募集することで、それぞれのテーマに関心の深い県民がモニターになっていただくことができたため、より活発な議論等が可能となった。

ウ 成果及び効果

担当所属において令和2年度予算要求や事業実施に反映させることができた。

テーマ	事業名（担当所属）	施策反映状況の概要
①地域防災力の向上（支え愛マップの普及など地域防災力の向上）	①住民避難体制整備総合事業（危機管理政策課）	1 ハザードの見える化・ビジュアル化【予算額：560千円】 2 浸水CGの作成【予算額：2,255千円】 3 浸水表示システムの作成【予算額：2,662千円】
	②避難所の生活の質向上事業（危機管理政策課）	住民に避難行動を起こさせるとともに、避難所で災害関連死を発生させないために「あらゆる人が避難しやすい避難所環境の確保」及び「発災時の早急な被災住民の生活改善」を図る。【予算額：10,281千円】

②健康づくり（健康マイレージ事業の普及など健康づくりの推進）	ココカラげんき鳥取県推進事業（健康政策課）	あるくと健康！うごく元気！キャンペーン（とっとり健康ポイント事業）「スポトピアとっとり推進事業」と連携し、自らの日々の活動がポイント化、ランキング化されることにより、楽しみながら継続的に活動できるような事業の拡充を図る。【予算：6,880千円】
--------------------------------	-----------------------	--

エ 課題

改善提案を効果的に事業反映に繋がられるよう、対象テーマの担当課だけでなく、モニター会議の中で派生した課題等と関係する課とも連携を密にし、県政モニターの意見をしっかりと的確に伝える必要がある。

4 若者広聴レンジャー事業

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

若者自らが広聴活動を通じ、県政へ届きにくい地域の方々の意見を聴き取り、議論することで、県への政策提案をする等、若者の県政参画及び幅広い層への広聴の促進を図る。

(イ) 事業の実施状況

- ・メンバー 4グループ、18名（鳥取大学生、環境大生、米子高専生）
- ・実施状況 地域活動への参加、SNS等を通じた広聴・広報活動
広聴レンジャー会議 [7/31、10/30]、知事への活動・提案報告 [11/21]、
日本海新聞での広報 [うさぎの耳特集 (11段) : 8/26、1/23]

イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

県担当者等が学生等が実施する広聴活動がスムーズに行えるよう、広聴手法等について助言・フォローを行った。

ウ 成果及び効果

担当所属において施策反映等を視野に入れ検討中。

グループ名	テーマ	提案概要
ツナガルドボク中国（鳥取大学の学生等6名）	学生の県内就業の促進～建設業を対象に～	オンライン上で県内企業間交流を促して県内企業の人事・採用能力の向上を図るとともに、県内企業内定者（移住者）と学生・保護者との座談会や学生と社会人の日常的な交流の促進により、県内企業で働くことの実情や魅力を学生・保護者に十分に伝え、県内就業を促進する。
小松と愉快的仲間たち（鳥取大学の学生4名）	若者が鳥取県に定住するために必要なこととは	広聴活動の結果、県内企業の魅力を知る機会がないまま県外企業に就職するケースも多いと思われることから、小学生向けホームページへの企業紹介動画の掲載や高校生向けに理系・文系別の就職ガイドブックを作成するなど、県内企業を知る取組の強化により若者の県内定住を促進する。
環大レンジャー（公立鳥取環境大学の学生4名）	自然を身近に取り入れる（鳥取県民と自然を繋げる）	自然を楽しむカフェやナチュラルリサーチャー育成の取組、自然史の専門家と県民とをつなぐ拠点を整備し、自然に対する関心の醸成と若手専門家の育成を図ることで、本県の豊かな自然環境の科学的な分析・評価を推進し、本県の自然に対する新たな誇りと魅力発信につなげる。
米子高専・電子制御科河野研究室チーム（米子工業高等専門学校の学生4名）	高齢者に優しい社会の実現（高齢歩行者の交通事故防止）	歩行者の接近に伴い、歩道と車道間に設置したランプが点灯し、これにより車両運転手により早く歩行者の存在を知らせ、安全確認を促す装置・システムを開発することで、高齢者の交通事故を防止する。

エ 課題

6月の事業開始当初から、各レンジャーが積極的な広聴活動を展開し、次年度当初予算要求の各課検討段階には政策提案を行うことができるよう、広聴活動計画の作成や広聴を行うにあたって最低限必要な知識の習得が行える仕組みを確立する必要がある。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
情報公開・個人情報保護制度実施事業	285	0	50	235
鳥取元気プロジェクト	—			
元気づくり総合戦略	—			

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

個人情報の保護を図るとともに、公文書の開示のほか、必要な情報を積極的に提供し、県の諸活動を県民に説明する責務を全うすることにより、県民参加による開かれた公正な県政の推進に資する。

(イ) 事業の実施状況

○公文書の開示決定（令和元年度）

区分	公文書開示	個人情報開示
公文書開示請求件数 (昨年度件数)	307件 (282件)	63件 (99件)
処理件数(※)	全部開示	30件
	部分開示	28件
	非開示	4件
	不存在	7件
	開示請求拒否	0件
	取下げ	2件
	その他	0件

(※) 1件の請求に対して2つ以上の開示決定等を行ったものがあるため、開示請求件数と処理件数の値が異なる。

○非識別加工情報利用の提案募集

事業者からの非識別加工情報利用の提案募集をホームページで公示した。

(令和元年度応募件数＝0件、募集期間 令和2年2月28日～3月30日)

※非識別加工情報とは、県が保有する個人情報を特定の個人が識別かつ復元できないように加工した情報（データ）。これらの活用による新たな産業の創出等を目的に、平成29年3月に制度化されたもの。

○情報公開制度・個人情報保護制度の普及・啓発

- ・ 条例の運用状況（開示請求や審査請求の件数及び処理状況等）を鳥取県公報に登載し、ホームページに掲載した。
- ・ 機会を捉えて職員等を対象として制度の研修を行った。

○個人情報の流出防止対策

- ・ 流出防止のための研修を実施した。

年月	研修名	会場・回数等
令和元年 5月	・ 個人情報・セキュリティ研修 (情報セキュリティ管理者対象)	県内3カ所（東中西）×各1回 (情報政策課共管)
6月	・ 非常勤職員・臨時的任用職員研修	県内3カ所（東中西）×各2回
8月	・ 職場人権研修 ・ 令和新时代創造本部不当要求行為対策および個人情報流出対策研修	県内1カ所（東部） 県内1カ所（東部）

○審議会開催状況

- ・ 鳥取県情報公開審議会 : 2回開催 諮問2件
- ・ 鳥取県個人情報保護審議会 : 0回開催 諮問0件

イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

新たな個人情報流出防止対策を実施した。

- ・非常勤職員や派遣職員を含めた全職員に周知するため、所属長宛での通知の他に全職員が見ることができる庁内LAN広告による注意喚起を行った。
- ・「個人情報流出防止の手引き（平成29年9月策定）」の一部改正を行い、過年度の流出事故事案に関する対策の徹底を周知した。

ウ 成果及び効果

○情報公開について

ホームページによる情報発信や任意提供（開示請求によらない軽易な方法による情報提供）等による積極的な情報公開を推進した結果、公文書開示請求件数は、ピークであった平成19年度の718件から大幅に減少している。引き続き積極的な情報公開に努めたい。

※ 任意提供制度とは、平成19年9月に制度化したもので鳥取県情報公開条例第34条に基づき、公文書の内容等を勘案し、開示請求によらなくても提供できるものは、任意で提供し、県民が必要とする情報を積極的に公開・提供することにより県民参画による開かれた公正な県政の実現を目指すもの。

【公文書開示請求件数（平成30年度）】

鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県
282件	1,037件	1,236件	1,083件	8,957件

○個人情報保護について

平成29年度途中から新たな個人情報流出防止対策に取り組み、継続的に実施した結果、平成29年度と比べ流出件数が半減した。

【流出の件数】

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
8件	13件	14件	7件	7件

エ 課題

- ・情報公開制度に関する職員の理解を、より一層高める必要がある。
- ・個人情報の流出事故のほとんどは書類の誤配布や誤送付によるものであるが、職員一人ひとりの意識を高めるとともに、単なる個人のミスとするのではなく、所属で取り組むものとし、内部統制の対象分野として関係課と協力しつつ引き続き個人情報漏洩防止や個人情報に配慮した職場環境改善、職員への意識啓発を進めていく必要がある。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
令和新時代創造県民運動推進事業 トットリズム県民運動推進事業	36,080	0	(基金繰入金)31,182 (寄附金)3,428 (財産収入)245	1,225
鳥取元気プロジェクト	IV 改革と絆で元気に ② 鳥取力創造運動(トットリズム県民運動)を積極的に展開し、とっとり創生支援センターで住民・地域の活動支援			
元気づくり総合戦略	大項目：2 人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む ～鳥取＋住む～ 中項目：(2)人財とっとり 小項目：「顔の見えるネットワーク」を活かした地域づくり			
(概要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
令和新時代創造県民運動の展開により、令和新時代を担う若者が主体の活動を広げるとともに、クラウドファンディング型ふるさと納税を活用して、多くの人の共感を得ながら取り組む活動を支援するなどして、令和新時代の新しい活力を創造し、地域の活性化を一層進める。				
また、活動表彰等により県民の自信につながる機会も設けることを通じて、若者をはじめすべての県民が、自分の住む地域の魅力を再認識し、ふるさと鳥取に対する自信を醸成する。				
(イ) 事業の実施状況				
1. 令和新時代創造県民運動推進補助金による支援				
県内で自発的に地域をより良くしていこうとする地域住民や活動団体、企業などが取り組む様々な地域づくり活動を支援した。				
<令和新時代創造県民運動推進補助金の実績>				
区分	対象事業	補助上限 (補助率)	採択件数/申請件数 補助額	
若者活動支援型	若者による新規、試行的な事業 従前の取組を拡充する事業	15万円 (10/10)	5件/5件 377,938円	
チャレンジ型	クラウドファンディング型ふるさと納税を活用した 発展的な取組	200万円 (10/10)	3件/3件 3,428,000円	
スタートアップ型			スタート支援 25件/37件	
スタート支援	新規、試行的な事業 従前の取組を拡充する事業	10万円 (10/10)	9件/10件	継続支援
継続支援	前年度以前にスタートアップ型(スタート支援)の補助を受けた取組に工夫を加えて継続する事業	10万円 (3/4)	11件/13件	ステップアップ
ステップアップ支援	前年度以前にスタートアップ型(継続支援)の補助を受けた取組に工夫を加えて成長させる事業	30万円 (3/4)		計5,860,564円
トットリズム推進型	発展的な取組で他のモデルとなり地域の活性化に寄与する事業	100万円 (3/4)	7件/12件 5,456,222円	
交流サロン活動等支援型 (新たな地域課題対応加算)	地域住民を中心に幅広く交流の場となる拠点を活用する事業 交流サロン活動等支援型の補助を受ける者等が、上記に加え高齢者や子どもの孤食等の新たな地域課題解決に向けた居場所づくりを行うための事業	100万円 (10/10) 30万円 (10/10)	5件/5件 3,242,059円	

2. とっとり県民活動活性化センターによる支援

○クラウドファンディング支援事業

クラウドファンディングサイト「FAAVO鳥取」の運営を行うことにより、活動団体等の資金調達を支援し、県内の地域づくり活動や経済活動等の促進を図った。

【実施プロジェクト】大山の頂上を保護する会 他2件（調達総額2,400,000円）

○とっとり創生支援センターによる伴走型支援

東部・中部・西部に、県と共同して「とっとり創生支援センター」をそれぞれ設置し、圏域内の相談対応（233件）を実施した。

○社会人ボランティア（プロボノ※）推進事業

県内の社会人ボランティア（プロボノワーカー）が、仕事などで培ったスキルや経験を活かして県内NPO等の支援を行うプロジェクトを2団体に対して実施した。

【受入団体】一般社団法人SENRO（八頭町）（マーケティング基礎調査）

NPO法人なんぶ里山デザイン機構（南部町）（広報ツール・営業ツールの提案）

※「プロボノ」とは、仕事等で得た経験やスキルを活かしたボランティア

○寄付つき商品開発普及事業

消費者が商品等を購入・利用するごとにその売上の一部を活動団体等に寄付する「寄付つき商品」の開発及び普及のため、企業の社会貢献意欲を喚起するCSRセミナーにおいて説明を行ったほか、個別企業への働きかけを行い、21件の寄付つき商品の開発及びマッチングを行うことができた。

【商品一例】

- ・ブルーシートを再利用したバッグ

中部地震での被害家屋の応急処置を行う団体等へ売上の一部を寄付

- ・カンパイチャリティー

県内のチャリティー参加飲食店でチャリティーメニューを注文すると県内NPO等へ売上の一部を寄付

3. 令和新時代創造県民運動実践団体登録制度

令和新時代創造県民運動に取り組む活動団体等を令和新時代創造県民運動実践団体として登録する制度（登録団体：468団体（令和2年3月31日現在））。

令和新時代創造県民運動サイト（県のホームページ）において、実践団体に登録した団体が自主事業のPRを行ったほか、各種情報の提供・共有・発信を行った。

4. とっとり元気フェス

「令和新時代とっとり元気フェス」を開催し、「令和新時代創造県民運動」を効果的に発信するとともに、県民の地域づくり活動への参加意欲の向上を図った。

〈令和新時代とっとり元気フェスの実績〉

開催日 令和元年12月22日（日）

場 所 倉吉未来中心

内 容 [ステージイベント]

- ・トークセッション「マンボウやしろ×地元高校生×奈羅尾玲子が語る!鳥取県はココがいい!!」

出演者：マンボウやしろさん（吉本興業所属タレント、脚本家）

奈羅尾玲子さん（タレント）

倉吉総合産業高校3年 財賀大和さん、長谷川希実さん

- ・地域おこし協力隊の活動紹介（椅子を使ったヨガ等）

- ・寄付つき商品の紹介

- ・ダンスTUBEによるダンスパフォーマンス

- ・鳥取短大生による大型人形劇とスマイルコンサート

[ブース出展等]

- ・協賛企業（大塚製薬、明治安田生命、日本郵便）
- ・日本財団×鳥取県、地域おこし協力隊、鳥取短期大学、倉吉北高校、円形劇場
- ・地域づくり団体（子ども未来、鳴石の浜プロジェクト、かめの泉等） 計20ブース
- ・UDタクシーの展示・乗車体験
- ・地域活動相談コーナー（社労士、税理士、とっとり県民活動活性化センター職員等が対応）

[同時開催]

- ・共感の輪を広げる活動団体交流会（主催：とっとり県民活動活性化センター）
- ・中部ハイスクールフォーラム2019（主催：中部地区各市町教育委員会）
- ・なしっこ館 無料感謝デー
- ・フリマくらしよし大市

参加者 約1,500人

5. 「令和新時代創造県民運動」ロゴマーク・キャッチフレーズ表彰式

「令和新時代創造県民運動」を広く県民に周知し、親しみのあるものとなることを目的にロゴマーク・キャッチフレーズを公募し、とっとり元気フェスにおいて採用作品を発表し、採用作品（最優秀賞）受賞者等に表彰状を授与した。

〈ロゴマーク・キャッチフレーズ募集の実績〉

表彰式開催日 令和元年12月22日（日） ※とっとり元気フェス内で開催

場所 倉吉未来中心

募集期間 令和元年7月24日～9月30日

応募 ロゴマーク：107作品（うち県内49作品、学生43作品）

キャッチフレーズ：243作品（うち県内36作品、学生30作品）

受賞者 最優秀賞 ロゴマーク：北村千栄さん（鳥取市・会社員）

キャッチフレーズ：清藤真由さん（鳥取市・大学生）

若者優秀賞 ロゴマーク：中島くるみさん（倉吉市・高校生）

キャッチフレーズ：山本一仁さん（琴浦町・高校生）

6. ととりの魅力発信PR動画コンテスト表彰式

ととりに行きたい・住みたい、ととりをもっと良くしたいという機運が盛り上がる動画を公募し、とっとり元気フェスにおいて優秀賞5作品（うち最優秀賞1作品）を上映・発表し、受賞者に表彰状を授与した。

〈ととりの魅力発信PR動画コンテストの実績〉

表彰式開催日 令和元年12月22日（日） ※とっとり元気フェス内で開催

場所 倉吉未来中心

募集期間 令和元年10月21日～11月29日

応募 42作品（うち県内38作品）

受賞作品（制作者名はハンドルネームです）

・最優秀賞「スローライフTOTTORI」（いとぴーさん・湯梨浜町）

・優秀賞「田舎の中学生 心の叫び」（大山テレビ部さん・大山町）

「これは、鳥取が魅せる1%。さあ、鳥取へ行こう。」(FJさん・鳥取市)※表彰式欠席

「WE LOVE TOTTORI」（岩本悠さん・伯耆町）※表彰式欠席

「鬼と兎の旅」（品岡兵助さん・鳥取市）

7. 令和新時代創造県民運動活動表彰

県内で、それぞれの地域や団体の特性などを活かし、意欲をもって地域づくり活動を積極的に展開している団体の優良事例を表彰することにより、令和新時代創造県民運動に取り組む団体の意欲の醸成及び認知度向上を図った。

〈令和新時代創造県民運動活動表彰の実績〉

表彰式開催日 令和2年3月23日（月）

場所 県庁第4応接室

応募 23団体

最優秀賞1団体、一般部門優秀賞3団体、SDGs部門優秀賞1団体、若者活動部門優秀賞2団体、協賛企業賞2団体を表彰

- ・最優秀賞 とっとり建設☆女星ネットワーク（倉吉市）「けんせつ絵本のおはなし会とワークショップ」
- ・一般部門優秀賞 NPO法人八東川清流クラブ（八頭町）「きれいな水の八東川をみんなで守る活動」他2団体
- ・企業活動部門優秀賞 株式会社エナテクス（倉吉市）「太陽光発電を活用してSDGs推進」
- ・あいおいニッセイ同和損保賞 小篠津町自治会（境港市）「はまる一ふんバスを利用しての「買い物ツアー」」
- ・大塚製薬賞 水木しげるロード土曜夜市実行委員会（境港市）「水木しげるロード土曜夜市」

8. 令和新時代創造県民運動PR事業

9月7日から10月31日を「令和新時代創造県民運動ワクワク月間」として、新聞広告やチラシの作成を行い、地域づくり活動団体の活動内容や月間中の地域づくりイベントの紹介等を行った。

また、地元のマスコミとタイアップし、令和新時代創造県民運動推進補助金採択団体等の活動状況を記事体広告で掲載した。

〈ワクワク月間チラシの作成〉

- ・B3版、両面、カラー刷り、16万部（R1.9.7）

〈令和新時代創造県民運動、令和新時代とっとり元気フェスPR新聞広告の編集・取材、掲載〉

- ・全10段広告 1回（R1.12.21）

〈活動団体の記事体広告の編集・取材、掲載〉

- ・文字400字程度、写真1点、16回（H31.4～R2.3）

イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・「トトリズム県民運動」を発展させた新たな住民参加型運動「令和新時代創造県民運動」として、若者が主体の活動を広げていくとともにクラウドファンディング型ふるさと納税を活用して多くの人の共感を得ながら取り組む活動を支援するため、令和新時代創造県民運動推進補助金に「若者活動支援型」、「チャレンジ型」を新設し支援した。
- ・「令和新時代創造県民運動」が県民に親しみのある運動となるよう、同運動のロゴマーク、キャッチフレーズを募集し、令和新時代とっとり元気フェスで最優秀賞等の表彰を行った。
- ・令和新時代とっとり元気フェスにおいて「ととりの魅力PR動画コンテスト」を開催し、「とっとり愛」をテーマに募集した1分間動画の公開審査を行った。
- ・9月7日から10月31日を「令和新時代創造県民運動ワクワク月間」として、新たにチラシを作成し、県民に地域づくり活動に触れ、興味を持ってもらえるよう啓発を行った。

ウ 成果及び効果

○令和新時代創造県民運動推進補助金

- ・補助事業65件を採択・支援し、県内各所での新たな地域づくりの機運の醸成につながった。
- ・新設した「若者活動支援型」では5件、「チャレンジ型」では3件を採択・支援し、若者が主体の活動や多くの人の共感を得ながら取り組む活動が広がった。
- ・平成30年度に補助金を受けた団体へのアンケート調査（回答：65団体、回収率：67.7%）では、①補助事業を実施した後、何らかの波及効果が得られたと感じている団体が98%（64団体）、②補助事業終了後も活動を継続している・継続させていく意向をもっている団体が98%（64団体）、③自分たちの活動等を発信し、外部の方にも興味を持ってもらうきっかけとなったと感じている団体が84%（54団体）という結果が得られ、補助金が活動の動機付けや意欲向上に一定の効果をもたらしていることがうかがえる。

○とっとり県民活動活性化センターによる支援

- ・地域づくりや地域づくり課題の解決に向けて、市町村との連携強化を進めていくことが必要であり、センターが市町村と地元NPOをつなぐネットワーク会議や交流会を開催し、地域課題解決に取り組む体制を整備した。
- ・社会人ボランティア（プロボノ）推進事業では、継続的な団体運営の観点から提案がされ、団体活動の幅の広がりにつながった。また、今年度は、関係人口を広げる取組と連携し、県外在住のプロボノワーカーの受け入れを行ったことにより、県内プロボノワーカーとのつながりができた。他のプロジェクトの共有や連携もでき、ネットワーク形成につながった。
- ・クラウドファンディングや寄付つき商品など、活動団体等の新たな資金調達仕組みを構築するとともに、企業の社会貢献活動を進めることができた。

○令和新时代創造県民運動実践団体登録制度

- ・鳥取県元気づくり総合戦略における登録目標数が460団体（令和元年度末）であるところ、468団体の登録数であり、目標を達成した。今後も、さらに登録のメリット等をPRするなど、引き続き登録団体を増やす取組を進めていく。

○令和新时代とっとり元気フェス

- ・参加者からは「鳥取県の魅力を再認識することができた」、「若い世代の人たちが帰ってくる、さらに魅力的な鳥取県にしていきたい」との声が聞かれる等、参加者にとって魅力ある地域づくりへの意欲向上等の機会となった。

○「令和新时代創造県民運動」ロゴマーク・キャッチフレーズ表彰

- ・ロゴマーク・キャッチフレーズ募集を通じて県民への「令和新时代創造県民運動」の周知につながったとともに、採用作品を新聞、チラシ、のぼり旗、HP等の広報のPR素材として活用し、認知度を高めた。

○ととりの魅力発信PR動画コンテスト表彰

- ・元気フェスにおいてコンテスト受賞作品の発表をするとともに、受賞作品を「とっとり動画チャンネル」で公開、SNSで発信、観光・移住定住のPR等で活用する他、県内公共施設等で上映し、県民等が鳥取県の魅力を再認識する機会となった。

○令和新时代創造県民運動活動表彰

- ・優良な活動事例の応募が多数あった。また、地域で頑張っている活動を表彰されることは大変励みになるとの声が聞かれた。

○令和新时代創造県民運動PR事業

- ・日本海新聞等にとりあげられた団体が、掲載された記事や紙面を団体のPR素材として使う他、新聞に掲載することで多くの人に活動内容を知っていただくことができ、団体の活動の認知度向上に寄与することができた。

エ 課 題

- ・「令和新时代創造県民運動」の更なる展開に向けて、県民運動の認知度を一層高めるとともに、若者が主体の活動や多くの人の共感を得ながら取り組む活動を広げ、更に多くの人が地域づくり活動に参加したり、活動を支援していくという機運の醸成を図っていく必要がある。
- ・また、SDGsの推進を進める中で、社会人ボランティア（プロボノ）をはじめ、寄付つき商品普及開発事業「お買い物チャリティー」やクラウドファンディングなど、企業や県民の多様な参加を促し、人材や資金を活動団体に循環させる仕組みを広めていく必要がある。

(単位：千円)

事業名	決算額	財 源 内 訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
とっとり県民活動活性化センター事業	56,175	0	55,592	583
鳥取元気プロジェクト	関連なし			
元気づくり総合戦略	大項目：2 人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む ～鳥取＋住む～ 中項目：(2)人財とっとり 小項目：「顔の見えるネットワーク」を活かした地域づくり			
(概 要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
公益財団法人とっとり県民活動活性化センター（以下「センター」という。）にボランティア、地域づくり、NPO活動の支援業務を委託し、関係機関や行政等と連携しながら、県民による様々な活動の推進を図る。				
(イ) 事業の実施状況				
区 分	内 容			
(1) 組織基盤強化支援事業	<p>NPO等の育成・活動基盤の強化を目的として、以下の事業を実施した。</p> <p>ア 専門家派遣事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家アドバイザー派遣制度への登録（登録者のべ37名） ※専門家＝税理士、司法書士、行政書士、社会保険労務士等 ・専門家派遣回数（15回） ・専門家等支援ネットワーク会議の開催（2回） <p>イ NPO経営実態把握事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きめ細かな相談対応を行うため、NPO法人経営実態把握資料を作成した。 ・NPO法人向けアンケート調査の回収を進め、NPO法人の経営実態を調査し、NPO法人経営実態把握資料及び課題をとりまとめた。 （アンケート回収数：102法人、ヒアリングを実施した団体：35法人） <p>ウ NPO事務力強化事業</p> <p>NPO法人等の事務力やガバナンスを高めるセミナーを3回（東部・中部・西部で各1回）開催した</p> <p>エ 助成金活用促進事業</p> <p>県内外の助成団体が提供する助成金情報を紹介し、効果的な活用を促す「助成金合同説明会」を2回（東部1回、西部1回）開催した。</p> <p>オ 非営利公益活動広報補助金交付事業</p> <p>チラシ作りや、ホームページの作成など、団体の広報活動を支援する補助金を交付した（NPO法人ひまわり倶楽部（米子市）ほか8団体）。</p> <p>カ 地域づくり研修企画補助金</p> <p>地域づくり団体等の事業のステップアップや、担い手のスキルアップのために、講師を招聘して企画実施する研修や全国研修に参加する経費を助成した。 （佐治町まちづくり協議会（鳥取市）ほか11団体）</p>			
(2) 地域づくり活動支援の輪を広げる取組	<p>地方創生に資する地域づくり活動の継続・発展を目的として、以下の事業を実施した。</p> <p>ア 地域づくり活動ノウハウ提供事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県における地域づくり団体協議会の事務局機能を担い、センターホームページ・メールマガジンを通じた情報発信を実施した。 ・県内の地域づくり団体や活動者の相談に対応し、地域づくり団体協議会への登録を促進した。 （登録団体 5団体（総数 125団体）） 			
(3) ネットワークを活用した地域づく	<p>市町村のNPO・地域づくり等の担当者と連携し、ネットワーク会議・交流会や地域課題ワークショップを開催し、県内のボランティア活動の情報収集に努め、関係機関との連携を図った。</p> <p>ア ボランティア支援ネットワーク事業</p>			

り活動の支援	<p>NPO等・市町村とのネットワーク会議、交流会を7市町と連携して6回開催 (参加市町：三朝町、倉吉市、琴浦町、北栄町、湯梨浜町、米子市、伯耆町) ※鳥取市でも開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した</p> <p>イ ボランティア支援団体等とのネットワーク構築 県民のボランティア活動を支援する団体・機関を訪問し、必要な情報を共有し、連携を図った。(延べ12回、9団体)</p> <p>ウ 民間協働型活動支援事業 企業との協働や県内外の支援団体との連携による県内NPO等の資金調達支援プログラムを実施した(4件)。</p>
(4) 相談体制整備・情報発信事業	<p>県民活動に共通する課題に対応するため、きめ細かな相談体制の整備、情報発信等を実施した。</p> <p>ア 相談対応・出前相談事業 常設相談窓口を開設し、相談の受付・対応(354件)を行ったほか、「助成金合同説明会」等と連携して、出前相談会を6回(東・中・西部 各2回)実施した。</p> <p>イ 情報集積・発信事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO活動、ボランティア活動、地域づくり活動に関する情報誌「いまと、これから。」を2回発行(5,000部/回)した。 ・講座や研修等の情報を時期に応じて発信する機関紙を4回発行(約400部/回)した。 ・NPO活動、ボランティア活動、地域づくり活動に関する情報や県民活動に関する情報をウェブサイト、メールマガジン(4回配信)等により提供した <p>この他、県が管理する「令和新時代創造県民運動サイト」においてイベント、研修、寄附、ボランティア、助成金等に関する情報の追加、編集、削除等を実施した。</p>

イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点
従来から重点を置いて取り組んでいる地域づくり団体への伴走型支援(個別支援)と併せて、市町村と連携してNPO交流会を開催(R1:2市5町、H30:2市4町、H29:2町)するなど、活動団体、NPO法人、地域自主組織と行政がつながる仕組み作りに注力した。

ウ 成果及び効果

- ・組織基盤強化、共助交通、集落支援、若者による地域づくりなど、様々な分野において新たな団体から相談や伴走支援の依頼が来るようになり、相談案件を通して市町村や地域とのつながりが深まった。
- ・センターは独自事業としてSDGsを推進する緩やかで参加型のプラットフォーム「とっとりSDGs推進会議」を立上げ、事務局として広く登録を呼びかけ、企業と団体との活動の連携ができつつある。
- ・日本財団と県とが協働で実施している「共助交通を通じた地域人材育成プログラム」の事務局をセンターが担うことにより、鳥取県の地域課題解決モデルとなりうる新たな取組みに貢献した。

エ 課題

- ・センターによるこれまでの地域課題解決への取組が県内へ波及し、県内の地域活動団体の新たな活動が更に推進されるよう、事務力向上、情報収集・発信、資金調達など様々なニーズにきめ細やかな支援を引き続き行っていく必要がある。
- ・地域活動団体、NPO等と市町村とが地域課題の情報共有や意見交換を行う「地域NPO交流会」が各地で行われ、地域が一体となった持続可能な地域づくりをさらに促進するために、このような機会を活用し、行政との連携をより強化していく必要がある。

6 決算資料

一般会計（歳入）

（単位：円）

区分	科目	予 算 現 額				調 定 額 A	収入済額 B	不納欠損額 C	収入未済額 A-B-C	備 考
		当初予算額	補正予算額	継続費及び 繰越事業費 繰越財源充当額	計					
歳 入	総務手数料	1,485,000	0	0	1,485,000	0	0	0	0	
	総務費国庫補助金	1,501,000	0	0	1,501,000	1,135,990	1,135,990	0	0	
	利子及び配当金	244,000	0	0	244,000	244,593	244,593	0	0	
	物品売払収入	198,000	0	0	198,000	184,020	184,020	0	0	
	総務費寄附金	0	4,000,000	0	4,000,000	3,428,000	3,428,000	0	0	
	鳥取元気づくり 推進基金繰入金	102,547,000	▲10,750,000	0	91,797,000	89,164,255	89,164,255	0	0	
	雑入	124,000	0	0	124,000	50,173	50,173	0	0	
	合 計	106,099,000	▲6,750,000	0	99,349,000	94,207,031	94,207,031	0	0	

一般会計（歳出）

（単位：円）

区分	科目	予 算 現 額					決算額 B	決算額の内訳		翌年度 繰越額 C	差引増減額 A-B-C	備 考
		当初予算額	補正予算額	継続費及び 繰越事業費 繰越額	予備費 支出及び 流用増減	計 A		本 庁	出納機関			
歳 出	一般管理費	4,110,000	0	0	0	4,110,000	3,645,453	3,297,049	348,404	0	464,547	
	広報費	25,000,000	0	0	0	25,000,000	23,150,581	23,150,581	0	0	1,849,419	
	文書費	1,879,000	0	0	0	1,879,000	284,476	284,476	0	0	1,594,524	
	計画調査費	110,066,000	△6,750,000	0	0	103,316,000	99,538,911	93,300,409	6,238,502	0	3,777,089	
	労政総務費	8,744,000	0	0	0	8,744,000	8,744,000	8,744,000	0	0	0	
	合 計	149,799,000	△6,750,000	0	0	143,049,000	135,363,421	128,776,515	6,586,906	0	7,685,579	

7 事業別実施状況調べ

(単位：円)

事業名	当初予算額 A	補正予算額 B	支出済額 C	翌年度 繰越額 D	差引残額 E=A+B-C-D	執行率 F=C/A	事業の計画と実績・成果・不用額・執行率
(一般管理費) (主) 県民参画協働課管理運営費	4,110,000	0	3,645,453	0	464,547	89%	・主な事業に関する調べのとおり
目 計	4,110,000	0	3,645,453	0	464,547		
(広報費) (主) パートナー 県政推進事業	17,659,000	0	16,512,172	0	1,146,828	94%	・主な事業に関する調べのとおり
総合受付等運営費	7,341,000	0	6,638,409	0	702,591	90%	・広報課で執行
目 計	25,000,000	0	23,150,581	0	1,849,419		
(文書費) (主) 情報公開・ 個人情報保護制 度実施事業	1,879,000	0	284,476	0	1,594,524	15%	・主な事業に関する調べのとおり ・非識別加工情報データ加工の外部委託がなかったため。 ・委託料 不用額：1,485千円 執行率：0%
目 計	1,879,000	0	284,476	0	1,594,524		
(計画調査費) (主) 令和新時代 創造県民運動推 進事業	0	6,509,000	5,247,180	0	1,261,820	80%	・主な事業に関する調べのとおり ・資産活用推進課、ふるさと人口政策課で執行
(主) トットリズム 県民運動推進 事業	41,016,000	△8,494,000	30,831,846	0	1,690,154	94%	・主な事業に関する調べのとおり
(主) とっとり県 民活動活性化セ ンター事業	58,027,000	△1,573,000	56,174,200	0	279,800	99%	・主な事業に関する調べのとおり
協働連携推進事 業	9,444,000	△3,192,000	5,760,403	0	491,597	92%	・鳥取県協働提案・連携推進事業補助金審査・検証委員会等にて採択された5団体に対し補助を行い、官民協働で計画策定及び事業実施を行った。

とっとり県民の日総合推進事業	1,579,000	0	1,525,282	0	53,718	96%	・学校における一斉取組の実施、県立施設等の無料開放日の広報、大型商業施設やスーパーマーケットで「とっとり県民の日」PRイベント等を開催した。
目 計	110,066,000	△6,750,000	99,538,911	0	3,777,089		
(労政総務費) シルバー人材センター活性化事業	8,744,000	0	8,744,000	0	0	100%	・(公社)鳥取県シルバー人材センター連合会の各種事業及び運営経費に対して補助を行った。
目 計	8,744,000	0	8,744,000	0	0		
合 計	149,799,000	△6,750,000	135,363,421	0	7,685,579		

8 予備費の充用調べ
該当なし

9 繰越関係調べ
(1) 継続費逐次繰越調べ
該当なし
(2) 繰越明許費調べ
該当なし
(3) 事故繰越調べ
該当なし

10 収入証紙取扱額調べ
—有— 無

11 現金の取扱状況
ア 現金取扱状況

収入科目(節)	収入済額(円)	件数(件)	備 考
物品売払収入	238,520	144	刊行物売払収入(県民参画協働課)、ピンバッジ売払収入(広報課)
雑 入	26,320	34	公文書・個人情報複写代金
合 計	264,840	178	

イ つり銭の状況

(令和2年3月31日現在)

つり銭の有無	有	つり銭の額(円)	17,800
--------	---	----------	--------

12 財産に関する調べ

(1) 公有財産

ア～ケ

該当なし

コ 出資による権利

(令和2年3月31日現在)

区 分	前年度末 (数量、金額)	本 年 度 中		本年度末 (数量、金額)	法 人 名	備 考
		増	減			
出えん金	円 3,000,000	円 0	円 0	円 3,000,000	公益財団法人とっ とり県民活動活性 化センター	
合 計	3,000,000	0	0	3,000,000		

(2) 金券類の保有状況

ア 金券の保有状況

有 無

イ タクシーチケットの受払状況

(令和2年3月31日現在)

前年度末未使用枚数	本 年 度 中		本年度末未使用枚数
	購 入 枚 数	使用枚数及び金額	
48 枚	0 枚	15 枚 17,880 円	33 枚

(3) 基 金

(令和2年3月31日現在)

種 別	前年度末	本 年 度 中		本年度末	備 考
		増	減		
鳥取元気づくり 推進基金	円 891,657,244	円 0	円 828,761,478	円 62,895,766	
合 計	891,657,244	0	828,761,478	62,895,766	

(4) 債 権

該当なし

13 財産の貸付け及び使用許可調べ

該当なし

14 借受不動産詳細調べ

該当なし

15 職員駐車場の管理状況調べ

該当なし

16 寄附物件の受納状況調べ

該当なし

17 備品の処分状況調べ

該当なし

18 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

—有—・無

(2) 物品の照合

有・—無—

19 貸付金等状況調べ

該当なし

○ 意見、要望等

特になし

